

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 除雪計画の見直しの方向性について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、5月18日付で土木部から資料が配付されているが、資料を含め、見直しに向けた検討状況や、今後のスケジュールなどについて説明を受けるため、理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（土木部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは、資料について説明を願う。

○土木部長（田畑 浩文）

- ・ 資料説明：「除雪計画の見直しの方向性について」（平成30年5月18日付 土木部調整）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ ただいまの説明に関して、確認したい点をお伺いしていくが、資料の2（1）のイ「市民協働の充実」の中の小型除雪機の貸与の件については、今部長がおっしゃったとおり、6月定例会に購入等の補正予算を提出する予定とのことであるので、各委員においては、このことを十分踏まえて発言いただくようお願いする。
- ・ 各委員から何か発言あるか。

○藤井 辰吉委員

- ・ 今お話しいただいた中での、小型除雪機と市民協働、除雪の計画について順次聞いていきたい。
- ・ まず、先日の協議の中でも話をしてきたが、ことしの雪は状況が大変ひどかったもので、対応する土木部だけではなく、各議員にもおそらくたくさん電話、情報が寄せられたのではないかと考えている。私のところにもたくさん来ていたが、特に3月の頭の大雪が、全体的に総量が観測史上一番ということで、しかも降ったタイミングがまた雪が降って幹線道路に入り、生活道路入ろうかなと思ったらまた幹線にも大きく雪が積もったということで、パターンのにもちょっとやりづらい状況だったと。その3月の頭が特に、固まっていた雪が雨で柔らかくなりざくざくして、車自体がはまってしまって動けなくなりもうどうしようもできないということが2日、3日続いていたと記憶しているし、それがかなり函館市のいろんな交通や輸送、市民生活を麻痺させていたと思っている。その中でも通りやすい道と通りづらい道があり、私が住んでいるところとかは、結構住んでいる人たちが、自分の家の前もそうだが車が走る道路とかも除雪して、それを自分の敷地内に入れたりしていて割と通りやすい道

路だった。片や、手つかずの路地とか住宅地などもあったり、そういう差を見ていると、やはり住んでいる方々の協力はすごく必要だと思うので、この小型除雪機の貸与というのはすごく市民協働を得る中で大事だなと思って見ている。

- ・ 質問に入るが、まず、新聞報道で細かい数字が出ていたが、今回の小型除雪機の貸与については、新聞報道に載っていた数字で間違いはないのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 小型除雪機の購入については、町会への貸与分として79町会に106台、学校などの公共施設への配置分として67施設74台、合計で180台を購入する予定としている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 町会の貸与分106台で、対象としている町会が79で、おそらく町会でも複数借りたりするのかと、町会によっては面積だとか縦横に長いだとかいろいろ特徴はあるので、あくまで想像だが、町会館に全部保管ではなく、それぞれ効率の良い場所に配置はするよう柔軟な検討をしていくのかなと思うので、そこに関しては柔軟性を持って決めていただけたらと思う。
- ・ 町会の貸与分の106台について、どのような考えで106台としたのかお知らせいただきたい。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 町会への小型除雪機の貸与については、4月12日付で181町会に対し意向調査の文書を送付したところであり、その結果、79町会から102台の希望があったところであり、故障時のための予備機4台を加えて106台を購入する予定とするところである。

○藤井 辰吉委員

- ・ 予備機が4台含まれているということで、この予備機の使用については、故障に対応するのかそれとも途中からやりたいなとおっしゃった町会とかに貸与するのかわからないが、この予備機も有効に使っていただけたらと思う。
- ・ 続いて、スノーボランティアサポートプログラムのことで伺いたいですが、こちらの制度を拡充ということだが、今ある制度とその拡充の部分についてわかりやすく説明をお願いします。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

・ スノーボランティアサポートプログラムは、学校周辺の通学路や商店街等の歩道の除雪に協力していただける団体と、市が小型除雪機等を貸し出す協定を締結することで市民との共同作業による冬期間の歩行者の交通安全確保を目的とするものである。この制度は、他都市で多く見受けられる除雪機の貸与制度とは異なり、燃料費や保険料を市の負担としていることから、他都市よりも1歩進んだ制度だと考えている。そのため、今後はこの制度をより活用しやすい制度に拡充しようとしているところであり、歩道除雪に限定していた生活道路の除雪を追加することで用途の幅を広げ、さらに加入する保険の変更による除雪作業者の事前登録の廃止や、申請内容の簡素化など手続きの見直しを図ってまいりたいと考えている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 柔軟性が増したのかなという印象だ。この制度については、今回雪がひどく、いろんな方から来た電話の中の話にも挙がっており、こういう制度があるんでしょと、うちもそれ使えるのかい、と聞かれたが、聞かれた中の全員が個人であったので、あくまで団体の方で協力していただけたらというこ

とで登録いただいた方という感じで説明したが、今回79町会が名乗りを挙げてくれたということで、やろうとくださる方はいるので、そこにさらに柔軟の幅を持たせて、今の説明だと、歩道に限定していたものを生活道路と、要するに車が通るところということだと思うが、あとは、燃料、保険に関しての費用は市で持つということだったので、その辺の柔軟性を持って協力体制を広げていけたらと思うので、今回の制度の変更の検討については、すごくいい変更だと思っている。

- ・ これまで、このサポートプログラムに、小型除雪機の貸与もそうだが、これまで協力して下さっている方々に対して、この制度を既に知っている方々に対して、今回の制度の変更の検討というのは伝わりやすくなっているのか。決めたがあまり伝わらないとかという状況なのか、それとも周知する方法があるのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 制度の拡充については、今後も各地区で開催される環境整備懇談会や小型除雪機の貸与にかかわる事前の打ち合わせにおいてしっかりと周知してまいりたい。

○藤井 辰吉委員

- ・ 小型除雪機の貸与に関する打ち合わせの中でということと、それ以外の懇談会、懇話会の中でも話をするということであるので、周知に関しては徐々にやっていただけたらと思う。ただ、次の冬が訪れる前にある程度もう浸透率は高めていただけたらと思う。
- ・ 保管場所についてはどういう感じにしているか。先ほどちょっと話の中で出したが、保管場所があるなし、あるいは複数台借りるところは一カ所にまとめなければいけないとか、その辺については今のところどういう感じで捉えているか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 先ほど答弁申し上げた意向調査により、各町会の保管場所の有無については照会したところであり、その中で保管場所があると回答いただいた町会については、保管を町会にお願いすることとしているが、なしと回答した町会については、近くの公共施設、個人宅も含めその辺の保管を協議しながら検討してまいりたい。

○藤井 辰吉委員

- ・ 今後、検討の中で進めていくということで、基本的には公共施設が近くにあればそこにということで、柔軟性を持ってやりやすいやり方をそれぞれの協力団体の方にさせていただけるようにしていきたい。
- ・ 先ほど他都市の例と比較して、函館市は一步進んでいるところの中の、燃料について費用は市が持つということだが、実際に使っていてなくなった燃料をどういうふうに誰が補給して、だれがどういうふうにお金を支払っていくのか、燃料の実物に関してどのようになっているか。補給の仕方だ。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 燃料については、これまで職員が燃料タンクを町会に運んでいた。今後は、この対応がなかなか難しいことから、各町会から近い給油所を市があらかじめ指定し、市から配付されたガソリンチケット等を用いて各自購入していただく予定である。なお、燃料費については無料ということなので、市のほうでその分は負担するという事になっている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 費用の負担は市ということなので、支払いの方法は説明なかったが、そこは180台の中で変に手間のかからないようなやり方をしていただけたらと思うので、よろしく願います。
- ・ 私もそうだが、町会員、特に役員等常々ご協力をいただく中心になりそうなメンバーの皆様が結構高齢の方が多く、小型とはいえ除雪機は重たいので、高齢の方々が操作するのに大丈夫なのかと心配している。私自身もやろうと思えばやれるが、時間的にちょうどいい時間に参加できるかどうかかわからないので、高齢の方が使うという前提で、この小型の除雪機というのは大丈夫なのかどうか、操作性も含めどのように考えているか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 対応する小型除雪機については、現行のスノーボランティアサポートプログラムで使用している機種を予定しており、自動旋回が可能な機種で選定しているため、比較的高齢者でも容易に操作できることになっている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 旋回が自動でというところが、実は私は除雪機を扱ったことがないのであまりイメージができないが、現行のものを使い、今でも貸与しているところが問題なく使えている機種だということで、純粋に台数が増えて説明する対象者が増えたということなので、そこに関しては説明にも少し時間を要するかと思うが、皆さんが使いやすい、一度使っただけで多分、次の年、次の年で覚えている方もいらっしゃるだろうから、次のときに大分時間はかかると思うが、市内でいるんな方々が一斉に動き出せるような態勢を整えていただきたい。
- ・ 今、町会の106台の分について伺ったが、公共施設に配置する分に関してはどのように決めていったのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 公共施設への小型除雪機の配置については、除雪機を配置することで、大雪時において施設に隣接する公道を除雪できる施設について市が精査した結果、小中学校や消防など67の公共施設に74台を配置する予定としたところである。

○藤井 辰吉委員

- ・ 公共施設については今、数の根拠を聞いたが、特にこの公共施設となるとじゃあ誰がどう除雪するのかや、そういうところで遠慮したりあるいはつらいからちょっと誰かやってくれないかなとかよくあると思うが、私の知人も、市の公共施設ではないが雪にはまっている車を助けに行ったら、その駐車場を管理している人からそこに車を止めるなど怒られたり、困っている人を助けるにもどういう目線で民間でやっているのを評価しているのかなど。しかもその人は、普段からその施設の周りを好意で機材も持っていて除雪までしている人だったのに、そういう感じと言われるのだなということを知っているから、公共施設等々またザクザクの路面になり車のはまったりするかもしれないが、公共施設に限らず困っている人がいたら協力をしっかりして乗り越えようねという意識も少し広めていただけたらと思うので、よろしく願います。
- ・ 新聞の報道だと、除雪機180台で9,000万円の購入費ということで6月定例会に提出する予定ということだが、そのような見通しなのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 町会への貸与分及び公共施設への配置分としては、先ほど説明したとおり計180台、総額で約9,000万円の購入を補正予算、6月定例会に提案する予定である。

○藤井 辰吉委員

- ・ 報道に出ていた数字をもとに、ほぼほぼそれでいくであろうということだが、市民共同の部分はこれで終わるが、次に、除雪計画について結構言われるのが、近くの都市との比較であつちはこののに函館はなぜこうなんだということを言われることもあるが、この除雪計画については、他都市との計画の差というのはどういう感じで捉えているのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 当市の除雪計画については、平成21年度から平成23年度の大雪を踏まえ、平成24年度に他都市に照会を行った上で大幅な見直しを行ってきたところであり、当市の除雪計画と他都市の除雪計画を比較した場合、除排雪道路の除排雪方針や各種制度などに違いはあるものの、基準に大きな違いはないものと認識している。また、除雪計画については、平成25年度以降にも毎年検証と見直しを行っていたが、今冬については記録的大雪のため、計画的に除排雪を進めていくことが難しかったという状況になったことから、ことし度は改めて見直しを実施していくこととしている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 根本的な部分では差はないだろうということだが、予算規模だとかあくまで必ずしも比較できるものではないし、対象としている路線の面積だとか長さとかも違う中で一概に比較はできないが、例えば予算の話がよく出てくるところである。今回に関しては、特に原因が横にためている雪の排雪場所と排雪するタイミング、また、運搬するダンプの手配が届かなかつたというところから聞いているので、以前の協議の中で阿部委員がおっしゃっていたように、ことしの除雪を経験したおかげで函館市の除雪体制の限界が見えたということ踏まえ、予算の見込みもそうだが、今回分析をした結果、ここに原因があつたと思われる排雪ダンプの手配、あと定例会の一般質問の中にも出ていたが、排雪場所として陸地の候補地をふやすのもそうだが、陸地ではない部分への排雪についてはどうなんだとかいうその辺についてもまた、大きな雪が降り市民の生活に停滞を起こさないような計画、あくまでやりながらでなければわからない部分もあるかとは思いますが、冬の間も住みやすいような——人口も減って財政の規模も縮小していくであろうという中で、滞りなく生活できるような体制・計画を少しずつ練っていただけたらと思う。

○阿部 善一委員

- ・ 計画の全体図がよくわからないので、概略的な質問をしたいと思う。さきほど部長は、7月ぐらいには計画を示したいということであった。この前委員会でもいったように、また、新聞でも報道されていたが、今度は当初から、当初予算が4億円のものが、3億円上積みになり7億円という新聞報道があつたが、そういう認識で受け止め方としていいのだろうか。

○土木部長（田畑 浩文）

- ・ 新聞報道にも先日出ており、私も大変この戸惑いを感じている。そのような中、3億円プラスという話がでたが、これはあくまでも計画上いろんな施策を積み上げていき、結果的に7億円になるケースもあるだろうし、あるいはそれ以下になるケースもあると思う。新聞に出た7億円という根拠につ

いてはおそらく、私も推測の域だが、過去10年間の除雪費を見た時に、少ない年を除けば大体平均すれば7億円前後になり、そうしたことから数字が出ていったのかと思っている。いずれにしても、計画のいろんな施策を積み上げていった結果、金額を確定したいと思っている。

○阿部 善一委員

- ・ ということは、この新聞報道の3億円を上積みするというのはフライングだという受け止めでいいのか。まだ計画ができていない中では、そういうことはありえないと。結果的になるかもしれないが、今の段階ではそこまでは作業は進んでいないという認識でいいのか。

○土木部長（田畑 浩文）

- ・ そのような認識でよろしいかと思っている。今回のこの新聞報道については、先ほども答弁したが、非常に戸惑いを覚えている。原部においても、各社この新聞報道からの問い合わせがあったが、手続き、手順を考えた時に、詳細については21日の委員協議会を踏まえてということがかたくなに取材を断り申ししてきた。今回の報道の出どころは私どもも存じ上げないが、いずれにしても原部からすれば手続き、手順を踏まえより一層慎重に対応したい。

○阿部 善一委員

- ・ わかった。そういう前提で議論を進めたいと思うが、先ほども申したように、当初予算が少ないがために本当に幹線道路に集中せざるを得なくて、どんどん一般生活道路に雪がたまり除排雪ができないという今までの結果、これは今回の雪だけでなく、実は何年も前もそういう傾向があったわけだ。そして、除雪業者が32者、それぞれ除雪会社の持っているショベルカーだとか機械、機動力を見ると、そんなに能力が高いわけではない。ましてやそこで国の道路もやっているところもあるし、道の道路もやっているところもあるし、市の道路もやっているところもある。国道が優先し、次は道道、次は市道になるわけだ。どうしても遅れがちになる。そこを今度、そういう場合は今まで過去何回かあったと思うが、今度の計画では、そのところを持ったエリアが、例えばその機械が全部道道あるいは国道に持って行かれたと、しかしそのエリアは業者がやっていたが、今度は別の業者が機械があるからとそっちのほうに柔軟に持って行くという考え方、だからエリアがあってないようなものだというような除雪配備の見直し方というのは私は必要じゃないかと思うが、その辺のところについてはどのようにお考えか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ ただいま阿部委員から御指摘のあった柔軟性を持たせた対応ということで、幹線道路、生活道路含め基本的にはブロック分けをしているが、状況に合わせ、その辺は今後検討してまいりたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ ぜひやってほしい。地域によっては、国道が非常に雪が降る場合もあるし、道道が降る場合もいろいろある。画一的な雪の降り方ではなくて、地形もあるから、いろいろあるがそこは柔軟にやらないとだめだと、エリアが決まっているからそこはだめだという話にはならないと思っている。
- ・ 今までの除雪基準というのがあった。例えば20センチだとかあったが、じゃあ今まで20センチたまったから全部入っていたかという、そこは全部入っていたわけではない。やはり機動力と予算の関係で、そのバランスをどうとっていくかと、それで入っていた。そうすると今度は、その除雪基準

を見直していくという中では、今までのその20センチという目安、これはそのまま行くのか変えるのか、あるいは、例えば一般道路とそれからさっきちょっと議論になった通学路の問題もある。これは私は一律には考えられない問題だと思っている。やはりその辺をどうやってこれから除雪計画の中に取り入れていくかということはどうのように考えているのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 先ほど藤井議員の御質問に答弁させていただいたが、他都市の状況なども踏まえると、計画上はほぼ基準を含めて同じような基準だと認識しており、その辺については今後の見直しについて、基準自体を見直すというようなことではなく、基準どおりにできるような方法を考えていくべきだと認識している。

○阿部 善一委員

- ・ ちょっと説明不足でよくわからないが、去年もこういうことがあった。20センチだが通学路の問題があり、そこが非常に滑りやすいと。冷たい風も当たり、凍ったりしていると。とてもじゃないがダメなので、地域の人がそれぞれ皆、自分たちが率先して子どもたちの安全を守るということでボランティアでやったらと後で報告を受けたところがある。だから、20センチは20センチでいいのだが、学校側とももう少し協議をして、通学路に指定されているところを最優先しなければダメだと思う。今までそれなりにやったが、私何回か土木部に電話したことがある。通学路になっているがさっぱり全然排雪しないじゃないかと。なぜかというと、道路が狭いところもある。狭いから傾斜になっちゃう。傾斜になるから滑りやすくなる。狭い中に傾斜になるから両サイドに入れられないから、4メートル以上ないから。そうすると非常に危険だ。だからそういうところは、本当はさっき言った小型の除雪機で入ってやればいいのだが、じゃあその排雪した雪を誰が持って行くのか、これが問題になってくる。だから通学路の問題については、教育委員会とももう少しきちんと議論して、最優先の形をとってほしいなと思うが。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 通学路に関することについては、教育委員会と今後通学路の除雪方法、頻度や排雪も含めて協議して検討してまいりたい。

○阿部 善一委員

- ・ 問題点を洗い出すとたくさん出てくると思う。それはやったほうがいいと思うし、何が問題かというと、やはり高齢化社会、さっきも藤井委員からあったが、地域によってはきれいに皆さんが家の前をやっているところもあり、大して問題にならないところもある。だが、一步超えると、1軒か2軒やらないために皆もやらなくなり全然車が通れないところもある。どこでもおそらく散見されると思う。だからそういう意味では、市民協力はもちろんだが、そこだけに頼った計画というのは私は本末転倒だと思う。間違いを起こすと思う。だからそういう意味では、今度は当初計画をきちんと持ち、予算がある程度確保されてできれば相当なものは改善されると思う。しかし、ことしのような雪ではどこまで対応できるかというのは私はちょっと疑問なのだが。

いずれにしても、たまったものがゆるんでぐちゃぐちゃだと、これが今まで何十年、実は函館の冬の除雪の最大の欠点だった。これをなくすために、やはり早めに排雪することだ。排雪しないと、4メートル道路の住宅なんて排雪しなければ雪なんかどこにも持って行くところなどない。いくら小

型除雪機をやったって雪を飛ばす場所がない。だから、排雪をするためのダンプカーをどうやって確保していくかということがこの除雪計画の中で——ただ机上のプランでは何の意味もないので、そのダンプカーをいかに確保していくかということが、その計画を着実に遂行できるかどうかかかっていると思う。そこはどのようにお考えか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 排雪にかかわる質問だが、ダンプカーが今後急激にふえるということは、今の情勢を考えるとなかなか難しいものと考えているが、その辺については何か方策があるかどうか今後検討することとし、排雪を効率的に行うためには、捨て場を近くに持ってきて効率を上げることによって排雪を進めていくという方法が現在検討しているところであるので、その辺についてはダンプトラックを今後どうするかというのも踏まえ、それとは別に空き地などを活用して排雪を効率よくしていくことに重点を置きながら対策してまいりたい。

○阿部 善一委員

- ・ 私も今それを言おうとした。緑の島だとかそこはそれとして大型なところはいいと思う。いわゆる小型なところ、例えば除雪機を貸し出したと、そうしたらそれを誰が積むか、どうやって積むか。例えば自分の持っているトラックや会社のトラックがあると、それに積んでずっと行かなくても、まちなかで、民地であってもあるいは使われていない土地でもいいと思う、そこは借りられるようにして、手軽なところ、手短なところに排雪する場所、家庭から出た排雪場所があると。

ダンプカーがそこに行くといろいろと問題があるので、例えば小型2トン車あるいは0.5トンだとかあいう小さなトラックがある。あいうのは、排雪機とセットになって動く効率がいい。それを今度、一番近いような、例えば廃校した学校の敷地だとか、それから民地でも何十年も使われてないようなところ、もちろん了解をもらっての話だが、そういうところに確保して捨ててもらおうとか、そういうことをしなければ、この小型除雪機は意味ないと思っている。それは表裏一体のものだと思っている。今課長がそう言ったから多分そういう方針でいくんだろうと思うが、確認のために。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 小型除雪機についても、除雪した後、当然ふちのほうに雪がたまりそれを排雪するというようなことが想定されるので、それについては今申したとおり、排雪した雪をまちなかの雪捨て場に持って行くことで効率を上げ、なおかつ市民の皆さんに小型除雪機の除雪を協力していただいた雪も含めてそこに運ぶように検討してまいりたい。

○阿部 善一委員

- ・ ぜひそれを計画の中に取り入れてほしい。
- ・ 3月の委員会でも言ったが、パトロールのあり方。これは非常に大事で、きょうも実は市役所に来るときに中の橋を通ってきたが、穴ぼこがぽんと空いていて車がパンクしたんじゃないかと思うくらい衝撃を受けた。ふだんパトロールを何台で市内を回っているのか、冬期と以外の時。やはりさっきのエリアではないが、一応エリアごとに形としてはしているのだから、そこはそのエリアを担当している業者に見守ってもらう、パトロールしてもらう。市役所のパトロールカーが回ったって無理だと思っている。対応しきれないと思っている。だからそういうのは民間なら民間にきちんと委託をして、そこでそのエリアどうなっているかと、それ以外のところは市が補完的に回るとか、市が主体ではな

くあくまでも民間が主体になり市が補助になるというようなパトロールのあり方、これをぜひ取り入れていただきたいと思うがどうか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ パトロールについては、現在市でも十分不十分はあるが、パトロールしているところではあるが、今言うように委託業者、除雪する方が直接見た目線で現地を見てパトロールし、その後対応するというようなメリットもあると思う。今後については、業者の委託の中でも市のパトロールとは別にプラスして、よりよい方向で活用してまいりたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ なぜそれが必要かというのと、例えば、業者にきょう、あす出勤してくれとなかなかできない場合がある。これはなぜかというのと、他の仕事が入っている、除雪専門でどの会社もやっているわけではない。他の仕事もやりながらやっているものだから、あしたすぐ入ってください、あさってすぐ入ってくださいと言ってもなかなか人がつかない場合がある。例えば、ショベルカー5台とダンプ5台入れてくださいと言ったときには、ダンプは2台しか確保できない、それからショベルカーは1台、2台と、全部を一回で確保するというのはなかなか難しい。そうすると、少なくともそのエリアの部分だけについてはその業者は知っているわけだから、大体あと何日ぐらいしたら入らなければだめだなどというふうに予測を立てることができる。そうすればそれに合わせて人の手配も機械の手配も、それからダンプが足りなければほかのどこかのダンプ会社に電話して、何月何日にうちに来てくれないかと手配を作れる。市役所から急にというとなかなか手配がつかない場合がある。皆さんも、言ったけど断られたとかできなかったとかって多分あると思う。それはそういうことだ。だから、あらかじめきちんと業者が把握できていれば、予測が立てられる。天気予報を見れば、これはまた降るなど、そろそろ限界だから入らなければだめだねと、そうすると去年はダンプの取り合いになっているわけだ、あちこちのダンプが。それで段々とダンプの値段も上がっていき、取り合いになったと。そういうことがあるので、そういうメリットがある。それを十分把握してほしいと思うが、部長、どうか。

○土木部長（田畑 浩文）

- ・ 阿部委員から御指摘あったとおり、民間業者を活用したパトロールに関しては3月の委員会でも答弁を申し上げたが、これはいいことだと思うので、前向きに検討してまいりたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ 先ほど議論になったスノーボランティアサポートの問題だが、これは実績はどうなっているのか。どういうところをどういうふうにしてどんな実績が今まで上がっているのか。私は余りこれからの中でそんな期待はしない方がいいと思っているが、その辺を明らかに。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ スノーボランティアサポートプログラムについては、平成20年度から小型除雪機を当初は1台、1団体からスタートしており、平成29年度については、小型除雪機10台までふえ、10団体と協定を結び学校周辺の通学路や商店街等の歩道の除雪のご協力をいただいていたところである。これが周知されていないのではないかというような御指摘もあった。それについては、我々としてはホームページ、先ほど答弁でも申し上げたが、環境整備懇談会等々で周知は十分してきたつもりであるが、なかなか浸透し切れていなかったというような課題は現実あると思う。ただ、10団体ということで平成29年度

も活動しているが、皆さんには一生懸命やっていただき、ある程度の成果は得ているものと認識している。

○阿部 善一委員

- ・ ある程度の成果とはどんな成果なのか。私が気になるのは、先ほどもちらっと言ったが、例えば歩道の除雪機を入れたと、じゃあその雪をどこへ飛ばすか、まさか道路には飛ばしてはいないと思う。函館の歩道というのはどこも非常に狭い。そういうものの雪はどこに飛ばしているのだろうと。トラックと併走し、除雪機と併走して雪を飛ばしたものをトラックが受けとめて歩くのであったらよいが、商店街だとかと今言ったが、その辺ちょっとぴんとこない。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 歩道の除雪を小型除雪機でしたときに、その雪をどこへ持って行くんだということについては、歩道つくところには当然歩道だけではなく車道がある。車道のふちに路肩、停車帯と我々が言っている堆雪スペースがあり、車道の除雪をするときも当然そのスペースに雪を一時的に寄せるという作業で使っているが、歩道をその車道と歩道間の堆雪スペースに一時的に置くことにより、車道の排雪等と同時にその雪も持って行くような路線を現在までは想定して実施していた。

○阿部 善一委員

- ・ よくわからない。イメージが湧いてこない。
- ・ 話を戻して申し訳ないが、さっきの基本的な除雪計画の中で交差点の角、四つ角、これ非常に視界が悪く、皆さんもご存じのように交通事故のもとになる。これも精力的に排雪するように計画を立ててほしい。特に信号のない交差点、これは非常に危ない。結構接触事故もあるようだし、信号があるときは大体信号に従っておけばいいが、特に信号のないところで四つ角あるいは丁字型になったり、そういうところの角に山のように、なぜかしら除雪車も角に置いていく。あれは意味がわからない。それは絶対次期の計画の中ではゼロにしてほしいと思う。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 我々、どの都市でもそうだが、除雪するときには一時的に交差点に雪山をつくるということは、必ず除雪をするときには必要だと考えているが、それが長い間交通障害、交通安全上支障があるということはそもそも問題があると今のところ認識はしている。それについてはできるだけ早く、一時的に除雪して堆積したにしても、それがある程度短い期間で排雪されるようなことが今のところ理想だと考えているので、その辺含めて計画で考えていきたい。

○阿部 善一委員

- ・ ぜひやってほしい。今までずっと雪が解ければ交差点の雪もなくなりほとんど放置もままだった。
- ・ 話をもとに戻し、スノーボランティアだが、ボランティアでそういう活動をしてくれるということは大変うれしいことだが、これを今度相当ふやすのだが、ふやすためのインセンティブは何か考えているのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 申し訳ないが、今のところ考えていない。

○阿部 善一委員

- ・ ぜひ考えてほしい。せっかくたくさん除雪機買うのだから、有効に活用してもらわないと、余った

ということでは大変なことになるので。

- ・ あと、除雪機を先ほど話したが、町会によっては、通学路だとか学校の周りの除雪は、実は町会に押しつけられるのではないかという受けとめをされている方もいる。そういうところは全部町会でやらなければならないのだろうかという受けとめされているところもある。先ほど言ったように、町会に除雪機のアンケートをとるときにどういうアンケートをとったのか。ただ、これから除雪機を購入するが、皆さん貸与を希望するかしらないかというようなことでアンケートだったのか。アンケートの内容を教えてください。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 町会への意向調査は、市の考え方として町会に示した内容がある。まず一つ目として、小型除雪機を市で購入し、町会へ貸与するという。二つ目として、維持管理費については燃料費、点検費、修理費および保険料は市の負担として考えている。保険の加入については、事前に登録する必要がある。保管場所がない場合については、近くの公共施設等で保管することを検討する。一番大事なのが四つ目になるが通学路を含む生活道路の除雪を主な目的としているが、これについてはあくまでも大雪時の備えとして、市が主体となるが備えとして協力いただける町会に対して希望をとっている。

○阿部 善一委員

- ・ だからその解釈の仕方だ。私はそれはちょっと違うと思っている。あくまでも、主体は市がやらなければならない。それで、どうしても手が回らない、いっぺんに降ったら確かに全部は手が回らない、除雪業者もさっき言ったように一定の能力もあるんだから、それ超えたものはできないが、じゃあその時に町会にやってもらうということなのか。私はそうであればまずいと思っている。そこまで強制、強要する話ではない。だからそういう受けとめ方をされている。今の四番目のような説明であれば、それはまずいと思っている。これは言い方、考え方を変えなければならないと考えているが。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 委員が申したとおり、我々も決して町会に押しつけるようなことは全く考えてあらず、除雪の主体はあくまでも市、市が精一杯やるというようなことについて考えている。大雪時については、市の除雪の行き届かないところについてなんとかご協力をいただけないかという趣旨であり、市のほうが主体でやっていくということについては変わらないので、あくまでも市民の力を借りて協力をお願いする、強制的なものでは当然ないと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ だから、その辺の言葉遣いもちょっと違う。協力は協力だ。市民あるいは町会の協力。それで、町会でもできるところもあるし、できないところもある。当然みんな、冬休み中は別だが、朝の時間帯にやらなければならないわけだから、みんな仕事に行く人もいるし行かない人もいるし、いるといたらリタイヤして年金生活者がほとんどになる。その人たちが主体になってくるわけだから、あまり町会に対する過度な期待というのは、私は絶対にしてならないと思っている。場合によってはとられてしまう。それはそうでないということを強くきちんと明言する必要があるし、市の態度を明らかにする必要がある。そうしなければだめだ。それともう一つは、学校やあるいは教育委員会との話というのは、これは終わった話なのか、あるいはこれからする話なのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 小型除雪機の学校への配置については、すでに教育委員会と協議を進め、十分話し合いを進めてきたところである。

○阿部 善一委員

- ・ 十分話し合いをしたと。除雪機的能力、排雪能力はどれくらいか。形は全て同じものなのだろうか。能力に差があるのか。購入するものは大きいものや小さいものがあるということではなくて。どうなのか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 今検討している小型除雪機については、スノーボランティアサポートで現在使っているものを一番大きいものとして想定をしており、中では先ほど実績のほうで話したとおり、町会が今現在使っているものについても、重くて扱いづらいという町会も一部あった。その辺については、一つに限定せず、そこは能力や使い方、重さなども3種類示し、各町会の意向に添ってその辺の希望をとっている。今現在スノーボランティアで使っている小型除雪機については、先ほど自動旋回含めて説明したが、能力的には15分で駐車場25台分というような感じで、最大投雪距離も17メートル飛ぶような機械を想定しており、これについては新雪だとかの条件で決めているので、濡れ雪だとかになると距離が若干落ちたりだとかもある。小さい小型除雪機を希望しているところもあるが、それについては、大きいところは使いづらいのではないかと、今持っていてお年寄りでということも中にはあったが、大半がやはり大きくて使いやすい方がよいというような希望であったので、基本的には3機種、小さいのと中ぐらいのと、今現在使っているものを最大として3種類想定していた。

○阿部 善一委員

- ・ 3種類を考えているのであったら、初めて使う人はどれがいいかわからない。だから、例えばカタログでなく実物、ホームックで売っているようなものとかあるが、その中にあるかわからないが、借りたはいいが、大き過ぎて動かす人がいないとか、あるいは逆に能力が小さくてだめだったというようなことになりがちだ。だからそれを選定するためには、なにかきちんとした形を示して、そこで選んでもらうということにならざるを得ないと思うがどうか。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 実際は町会への照会を行ったときには、3機種の細かい内容はつけなかったが、今現在使っているようなものの能力とか細かい内容については、写真つきで説明を加えたもので説明している。その中に、重量について小さ目のものがありますというような説明で。どういう機械なのかと問い合わせも相当あった。内容についての問い合わせがあった中で、説明をした上で設定しており、役員さんの中でも自分でも持っているような人もおり、その辺と比較した上で検討しているということなので、確かに全てがということについてはしていないと思うが、おおむねある程度のイメージがついた中で選定している。

○阿部 善一委員

- ・ 私は除雪機がどれだけ貢献するかというのは懐疑的にしか見ていないのだが、あまり大して活躍できないのではないかと考えているし、除雪計画を市がこれから定めていくそもそも論になってくるが、例えば、通学や一道路などきちんと当初からそれなりに計画をくんでやれば、そんなに100台も200台もいるようなそんな除雪計画を作らなくてもいいと思っている。これは長続きしないと思っている。

なぜかという雪を飛ばすから、雪を飛ばすのだからそれを受けるところがなければならぬわけだ。これは4メートル道路では絶対使えないよ。よその家の壁に雪がどんどんかかるわけだから。中に石が入っていたら石も一緒に飛ぶから。だから、そういう道路ではこれは使えないし、じゃあどこで使うか。通学路の問題になってくると、先ほども言ったが車道に雪を捨てるわけにはいかないから、トラックと併走してやらないと意味がないと思っているし、相当使い方が制限されてくる。例えば、個人で家の前をやると必ず苦情が出るのだから。家に雪がかかっただとかかぶさっただとかというのは近所のトラブルのもとになる。そうすると、町会も相当慎重な扱いにならざるを得ないと思っている。あとは使う方は町会でどうするか、借りたところの町会で決めればいい話で市役所はそこまで口を出す話ではないが、そういう意味では、余りここに期待を寄せない方がよい。それよりも、本計画をきちんとそれなりに予算を確保してやるほうが、まず何よりも大原則だと思っている。この除雪機の補助、場合によっては、市民と市民のトラブルのもとになりかねないものであるということは申し上げておきたい。だから、そういう場合は貸し出す場合に、さっきも言ったようにマニュアルもきちんとつくらなければならないなどと思っているが、そこはどうか。

○**土木部長（田畑 浩文）**

- ・ 小型除雪機に関しては、阿部委員おっしゃるとおり、あくまでも大雪時における市民共同、補佐的な位置づけだと思っている。あくまでも除雪に関しては、主体は市であるし、そうした計画を練っていかうと思っている。そういう意味で、まずは小型除雪機を貸与して、市民の共同という観点からも進めていきたい。

○**阿部 善一委員**

- ・ これで終わるが、いずれにしても7月をめどにもう一度きちんとものが出てくるということなので、それを見て議論を深めていきたいと思う。今日はこれで終わる。

○**工藤 篤委員**

- ・ 今、話を聞いて大分イメージが湧いたが、問題は、大雪というか、雪の対策をこらしみたいなところに焦点を置くのか、今までのケースの中での平均をとるのか、それによって対応が違ってくると思う。そういう場合において、32者というがその体制が変わらないのかどうか、予算との関係でどうしても出てくる。その辺のイメージが湧かないので教えていただきたい。

○**土木部道路管理課長（荒谷 哲次）**

- ・ 業者が直接、ダンプトラックを含め急に増えることはないということで、32者で、ことしプラスになれば別になるだろうが、その中で大雪時に備えたどういう対応ができるかというものを基本に考えている。

○**工藤 恵美委員**

- ・ おおよそ皆さんの質疑でわかったが、ちょっと確認をさせていただきたい。スノーボランティアサポートプログラムだが——私の町会をイメージして話したいと思うが、除雪機を町会が要望した、2台でも3台でもいいよとは言っているが、そこで誰が除雪機を使うかということになり、除雪隊を、山の手町会除雪隊をつくらうかといったときに、それはスノーボランティアサポートプログラムの団体に入るのかどうか。

○**土木部道路管理課長（荒谷 哲次）**

- ・ 既存のスノーボランティアサポートプログラムは、実は小型除雪機だけでなく、例えばスノーダンプで雪かきしたりだとか、除雪に特化したボランティア制度となっているので、もし町会のほうでボランティア隊を作るとすると、その中での活動になると思う。

○工藤 恵美委員

- ・ もう少しスノーボランティアサポートプログラムについて聞きたいが、これは土木部が所管しているものなのか。町会には自主防災組織というのがあるが、これは総務部が所管しているいろいろなやり取りをしているわけだが、スノーボランティアサポートプログラムというのは私たちはあまりふだん聞いたことがないもので、どこでどのように公募しているのか。それと、環境整備懇談会も土木部か。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ スノーボランティアサポートプログラムの所管は土木部で、土木部の中でも平成29年度までは維持課が所管していた。今は機構改革があり、平成30年度からは道路管理課ということになったので、こちらでスノーボランティアを所管することになる。また、環境整備懇談会は、今後、各地区で開催されるが、その所管については市民部で所管している。

○工藤 恵美委員

- ・ わかった。やはり部局がまたがるとわかりづらいという面もあるので、ワンストップでお願いをしたいと思う。
- ・ 学校の通学路を子供たちのために除雪してあげようということはよく冬になると、高丘町会か、あの辺はいろいろな大学から高校からいろいろな学校が集中している所なので、そのために学校の先生方それから地域の方々が積極的に通学路の除雪をしていると、何回も新聞に出ているので、他町会でもまねしたいと思いながらなかなかできないでいるなど思っている。この通学路の認識だが、うちの町会で通学路の説明をすると、みんな歩道だと思っている。歩道というのは市が除雪するものなのじゃないのかいなどという話になる。みんなの意識が共通しないものだから、生活道路なのか歩道なのかというその違いを教えていただけるか。通学路の認識、どこを除雪したらいいのかということ。

○土木部道路管理課長（荒谷 哲次）

- ・ 歩道という話で申すと、今スノーボランティアサポートプログラムでやっているものについては歩道、車道と歩道が一緒に使っているものではなく、歩道だけ独立してあるものについて想定しているが、通学路とよく言うと皆さんやはり認識がそれぞれ違う。よく市のほうでいう通学路については、教育委員会において各学校で指定した通学路というものなので、それぞれ例えば、本当の主要となるものだけを通学路と位置づけているものもあるし、中には生活道路、車道と歩道が一緒になったような道路も含めてほとんどの道路を通学路にしているところもあるので、その辺は認識しづらい部分なのかという気はしていて、先ほども阿部委員からも質問があった中で、教育委員会との連携という意味で、その辺の整理は必要だと思っている。皆さんが、誰がどう見ても通学路だというようなわかる状態が一番いいと思っているので、その辺については今後教育委員会と詰めてまいりたい。

○工藤 恵美委員

- ・ ぜひ、教育委員会と詰めて、学校にも除雪機を貸与するようだが、学校に貸与するのだから町会が、地域がやらなくてもいいのかなとか、そういう話に膨らんでいくと地域間交流というのが低下してしまうので、その辺も含めて細かいところまで計画を作っていただきたい。

- ・ 全体の除雪計画についてだが、ふだんから提案させていただいていたが、少子高齢化でなかなか子供たちが除雪、いわゆる雪かきをしている姿もなかなか見られず、お年寄りが一日いっぱいゆっくりゆっくり雪かきをしている姿が市内のあちこちにみられる。排雪に関してだが、私も一生懸命雪かきをしたが、もう家が埋まるくらいにいっぱいになり、排雪をトラックを持っている方々をお願いをしたら、軽トラックで5万円取られた。そうしたら、10万円かかったよとか、結構皆さん高額な金額を払い、その金額はそれぞれまちまちだったようだ。それで、ある建設会社と運送会社の方々から提案があったが、それぞれの地域、各町内会の地域に、小さい大きい関係なく必ず運送会社や建設会社が所在すると思う。その方々との連携を、市との連携をぜひともしていただきたい。

先ほど聞いていたら、除雪計画の中でも、排雪場所もことは後手後手になり、慰霊堂のところもほとんど後半になって開設したというようなこともあったが、西小学校、中学校の跡だとかここも提案させてもらった。それから海洋センターの奥のほうとかもほとんど後半に、地域の方々からの提案で開設したということであるから、大雪、大雪でないにかかわらず、もっと地域に沿った、地域だとすぐに捨てに行けるそういう場所を最初から地域指定を前もってしてあげるとか。そうするといろんな方々がボランティアしていただけるような環境整備というのか、遠くまで弃天の人が旭岡まで捨てに行くというようなことがないように。そうでなく、それぞれの地域に排雪する場所があれば、いろんな方々がちょっとお手伝いとかボランティアとかって参加できるような気がするの、その辺も除雪計画の中に組み込んで、地域の運送会社とか建設会社とか、今度からはちょっと従業員に除雪の仕方を学ばせようとかというふうなお話を。ただ、市と契約して全市あっちにいけとかこっちにいけとかと除雪してこいと言われると、それは会社の規模としては無理だが、地域貢献で地域の自分たちの地域を除排雪するのは構わないよというような話が聞こえてきたので、それも含めてぜひ、除雪計画の中に組み込んでいただきたいなど要望して終わる。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に、各委員から何か発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ それでは発言を集結する。ここで理事者はご退室願う。

（土木部退室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。

○阿部 善一委員

- ・ 7月にもう一回正式なものが出てきたら、委員会でもた協議するのか。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 検討してみる。
- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 議題集結宣言

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告

- ・ その他、各委員から何か発言はあるか。（「なし」の声あり）
- ・ 散会宣言

午前11時26分散会